

# 開発の舞台裏

第35回 中小企業優秀新技術・新製品賞

りそな中小企業振興財団・日刊工業新聞社選定 6

優秀賞

木幡計器製作所

アナログ式の圧力計をIoT(モノのインターネット)化する「Salt」

ta(サルタ)」。老舗圧力計メーカーである木幡計器製作所(大阪市大正区、木幡社長)が開発に至った背景には、圧力計の本質を考え抜いた発想の転換があった。

およそ8年前、木幡社長はあるホテルで開かれた会合に来ていた。ふと駐車場を見ると、壊れた圧力計が目にとまった。

「自分も事業者である以上、壊れた計器を見るのは心が痛かった」(木幡社長)。定期的に訪れるホテルだったため、あえて報告せず、修理されるまで黙って見届けることに。すると「誰も気付かなかったのか、5年間も

後付けIoTセンサーユニット「Salt」



サルタを手にする木幡社長

## 圧力状態を簡単に点検

壊れっぱなしだった。こまめに考えた」。

の経験から、誰でも簡単に今日普及しているブルに点検できる仕組みが必須。ドン管式圧力計は基本構

造が100年以上変わっていない。見方を変えれば業界の変化や技術革新が起りにくいということでもある。木幡計器は船用ボイラ向けなどを手がけ、需要は安定している。遠隔監視にも利用可能だ。

が簡単に点検できる仕組みと結びつき、サルタが生まれた。

大がかりな工事をせず

不安を抱えていた。

そこで自社の強みや特徴を何度も問い直した。

「なぜ圧力計が必要なのか」「そもそも顧客は何を求めているのか」。試行錯誤の中で見えてきたのは圧力計の本質だった。すなわち、顧客が知りたいのは「圧力状態が安全か危険か」という情報だけ」(同)。この発想

(随時掲載)